

れ、お子さんは卒業してしまわれるし、このお手紙はもうなくなってしまうと思います、残念に思っていたのでした。いつも念頭を去らなかつたのでした。

ところがある日、中井泰三郎という人から電話があり、清浦伯のお手紙が見つかったというお知らせを受けたのでした。実に五十年ぶりのことでした。どうしてわかつたかといえば、私がお手紙をあげた中村さんが亡くなられ、その妹さんが、中村さんが大切にしておられた清浦伯のお手紙を大切に保存しておられたのだそうです。ところがその妹さんが亡くなられたため、その弟さんの中井さんがあと片づけをしておられるときに、そのお手紙を見つけ出されたのだそうです。中井さんは額にして大切に保存しておられたのだそうですが、額にまでして大切にしておられたので、妹さんも大切に保存しておられたのだそうです。中井さんは京都工業会の総務課長をしておられる方で、以前ここを会場にして全国高校選抜競技大会を開いたり、また講習会を開いていただいたりして、私がこの華文字の話をしたことがあり、それを覚えておられてお知らせしていただいたのでした。誠に五十年ぶり、いろいろ思いがけないことがあるのかと思うのです。私は早速いただきにありがた、大切に保存しているのです。

妹が入院中出した華文字はがきはアルバムに張って病室においていたのですが、妹が病院をかわる時付添いの女性が棄ててしまっていたのは誠に惜しいことをしたと思います。病院をかわった後のものはみ